

特集

講習 1：「思考力・判断力・表現力」の育成をめざす指導
 講習 2：発音指導とリスニング指導のワークショップ・クリニック

講習 1 8月6日(月)

担当：東條加寿子、中井弘一

■講座のねらい

新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す知識基盤社会においては、異なる文化との共存や国際協力の必要性という理想の追求もさることながら、アイデアなどの知識そのものや人材をめぐる国際競争の加速化が一層激しいものになっている。その対策としての規制緩和や制度改革が進む競争社会において、自己の能力を發揮し社会に貢献するためには、基礎的・基本的な知識・技能の習得やそれらを活用して課題を見だし、解決するための思考力・判断力・表現力等が必要であると文部科学省は我が国の教育の方向を打ち出している。

第一部「国際社会を読み解く英語力」では、グローバル化の進む国際社会で通用する「思考力・判断力」を養うためには、自文化の価値判断や思考回路から脱却した異文化理解の視点が必要であることを、時事英語素材を使って演習する。第二部においては、英語の授業で「思考力・判断力・表現力」を育成する指導の構成要素は何か、その key competencies とは何かを探りながら、critical thinking をはじめ様々な thinking skills や PBL などを用いた実際の教材展開例を考える。

受講者のコメント（受講者 26 名から一部紹介）

- ・久しぶりに学生に戻った気分で充実した一日を過ごすことができました。自分の頭の中ではっきりとしたイメージがないまま、こんなふうに教えたいと思っていたことを系統立てて教えていただき、スッキリしました。まだまだ学ぶことも多く、生徒達に伝えることも多いと実感しています。用意していただいた教材が盛りだくさんで、この夏休みにじっくり読み、勉強したいと思います。ありがとうございました
- ・講師の先生方の熱意が伝わり、「自分も頑張ろう」という気持ちになりました。有効なサイト、スピーチなども紹介していただきありがとうございました。
- ・英語力向上のためのスキルや実際の授業ノウハウといったことよりも、「今、育成すべき英語力は何なのか」ということをしっかり考えることが出来た講習でした。そういったアプローチの方が意外と具体的な授業での活用方法がイメージでき、私にとってはよい機会となりました。
- ・英語授業を通して、思考力、判断力、表現力を高めるということは素晴らしい発想だと思いました。これまでの英語を教える中で、一番大事なことが欠落していたのだと反省させられました。生徒にこの critical thinking の力をどのようにつけさせたいのかを様々な手法や実際の現場での取り組みを紹介していただき、本当に参考になりました。まずは自らの発想を転換し、新しい授業を展開しなくてはいけないと思いました。
- ・テキスト以外の投げ込み教材を活用することをこれまでではしていませんでした。本校では 2 年生よりディベートに取り組んでいますが、1 年生から中井先生がされていたように、即座に判断し、その根拠や理由をすぐに相手に伝える日々の訓練が大切だと思いました。日頃から意見を構築する機会を与えていきたいです。また、外国人がよく尋ねる質問に英語で解答を書かせるという活動も興味深く思いました。積み重ねることにより、対話の内容が深められると思います。是非実践させていただきたいです。時事教材を取り入れた授業にはずっと取り組んできました。英文の記事にも文化や価値観が見え、映像にも海外の文化があり、扱い方も楽しいです。生徒のレ

ベルに教材を作り替える苦労はありますが、今日の講義を聴いてまた、頑張ろうと思います。

- ・時事英語には興味があるので、その具体的な素材、また Wordle などの useful sites の紹介などとても有益でした。iPad を用いての説明も良かったと思います。「思考力を高める授業」は頭を柔らかくするための問題が、私の頭の固さを思い知らしめてくれました。きっと生徒の方がもっと簡単にわかるのですね。先生の熱心な講習ありがとうございました。ただ、プリントの字が細かくて senior eye の私には復習するのがつらいです。
- ・英語授業のスタンスを再構築する必要性を痛感させられる内容でした。どちらも豊富な資料で咀嚼するのに時間がかかりそうですが、きちんと丁寧に読んで自分のものになりたいと思います。ありがとうございました。
- ・さすが英語教育の素晴らしい大学だと受講して再認識しました。私も現役の学生時代に学びたかったと思いました。
- ・あっという間に時間が過ぎ、学生時代を思い出しました。「こんな授業がしたい、こういう話を伝えたい」学生時代に思い描いていた自分の理想像をまた思い出すことができました。とても貴重な情報をありがとうございました。
- ・聴講で参加しました。たくさんの資料をありがとうございました。友達が努めている群馬国際アカデミーという学校で、“Critical Thinking” を身につけさせることを大切にしていると聞いて、どうやって指導すればいいのかと、思っていたところでした。とてもわかりやすく説明していただけた。自分が明日から実践するにはかなり難しいことで、教材研究や授業中に意識を変えていかなければいけません。でも、一つでも発問の仕方を変えていけるようにしていこうと思いました。また、東條先生の講習では、はじめて iPad に触れました。とても有効なものなので、使いこなして良い教材を生徒達に与えていけるようにしようと思いました。ありがとうございました。
- ・今日一日だけでは、自分の授業の仕方が変化させられるような感じがしないので、連続して受講したいと思いました。「英語力」の前に話すための知識や自分なりの意見・感想を持つことが重要だと思うので生徒達の生活習慣や家庭環境がとても大事だと思います。日頃、自分たちが生活している社会にどれほど興味を持ち、学ぶ意欲を持っているか、持つことができるか、LINE やバーチャルの世界でしかコミュニケーションをとれない、そしてすぐにトラブルになる現状にととても不安になりました。英語教員として、英語を使って生きる力、思考力判断力、表現力を養うため、少しでも自分の周りのいろいろな物事に興味を持ち、異なる価値観や文化かに触れ、他を除外しない理解しようとする力をつけさせたいと思います。本日はありがとうございました。

講習 2 8月7日(火)

担当：夫 明美、東條加寿子、中井弘一

■講座のねらい

英語の音声に焦点を当てた体験型ワークショップ・クリニックを行う。
 午前の部は、英語の発音を理解し発音指導の素地を教師自身が形成するために、音素の生成過程や音のつながりの仕組みを理解し、教室で使用されているテキストを用いた体験型ワークショップを通して、発音向上のための練習を行う。また、発音指導のヒントについて考える。
 午後の「英語リスニングのクリニック (1)」では、次元を広げて、文レベルの音のつながりを取り扱う。リスニング (音声情報) とリーディング (文字情報) を関連付けたスラッシュリスニングの指導法について考える。
 午後の「英語リスニングのクリニック (2)」では、捉えるまでは「存在しない」、聞こえても「すぐ消える」音声の不安定性に対応するため、音の判定と識別の遅れをなくし、その捉えた音を意味化する処理に生じる遅れも小さくするリスニングのストラテジーとしての指導ステップを考える。



受講者のコメント（受講者 36 名から一部紹介）

- ・今日の講習も素晴らしくあっという間に時間が過ぎました。どの先生も英語が本当に好きなんだというのが伝わってきました。私も生徒にそんなふう感じてもらえるよう日々成長していけるよう頑張りたいです。
- ・夫先生…わかりやすい指導法「鳥の鳴き声」など具体的に教えていただきわかりやすかったです。また、大学卒業後では本当に久しぶりの音声学で新鮮で楽しかったです。また受けてみたいです。東條先生…毎回わかりやすく、簡潔にまとめられているところがよかったです。自分自身、先生の講習を受け、情報処理力、思考力の大切さがわかります。また受けてみたいです。中井先生…本日の講習において、リスニング力症状診断は生徒だけでなく、私自身においても、役立つ内容であったと思います。反省会がなかったのが残念ですが、次回もっと議論したいです。
- ・3月の講習に続き二度目の受講です。本日の講義では（特に発音、音声について）大学でもこんなに詳しく習っただろうかと思うほど、丁寧に教えてくださり、本当に受講してよかったと思いました。生徒にもわかりやすいイメージで“音”の出し方を教えていただいたので、二学期から活用させていただきます。東條先生、中井先生の講義では「リスニングとは何か？」という根本的なところから考え直し、生徒たちに何から指導していけばよいのかというヒントを与えていただきました。どうもありがとうございました。
- ・発音練習は久しぶりに新鮮で楽しかったです。中には頭の固いひねくれた子どももいるので、その子たちには、音の出る構造や舌の位置といったアプローチが有効かと思いました。リスニングは、子どもにとって出来たらすごく嬉しいもの、達成感があるものなので、発音・音読練習をセットで前向きに取り組ませたいです。二日間ありがとうございました。大変勉強になりました。
- ・今まで発音についてきちんと学んだことがなかったので、非常にありがたき拝聴しました。とてもわかりやすく、実際自らも発音するので理解しやすかったです。また、午後の授業では、シャドーイングの練習を教えてもらい実用的な授業でした。ありがとうございました。
- ・発音の指導で、自分なりの工夫をしてきたつもりではあったが、今日、受講して発音の仕方、教え方など基礎から学習し直せたことが、一番の自分の収穫です。[æ][ʌ][a]の発音の違いやどのように声かけをすれば良いかが、よくわかりました。発音を指導する際に今ひとつ、自信のないところが今までありましたが、今日の研修でよくわかりました。これからは発音を含めて大切さを生徒に伝えていきたいです。この講座は、ずっと受けたいと思っていたのですが、今日やっと念願の講習を受けることができ、内容もとても満足のいくもので、夫先生、東條先生、中井先生には本当に感謝です。
- ・発音は、意識して勉強しないと向上しないものだ改めて思い知らされました。残り少ない教師生活ですが、あらためて自分を鍛え直したいと思います。リスニングも自分自身を生徒達の力をあきらめてはいけなないのだと実感しました。手を変え、品を変え、生徒達にあきらめさせない授業を考えたいと思います。ありがとうございました。
- ・非常に参考になりました。生徒が発音記号さえ読めないのを知りつつも、音声指導に割く時間が無いと言いつつ日々…。語学の教員として大きなジレンマを抱える日々ですが、この状況を改善するために少しずつですが、前向きに努力していこうと強く感じました。本日は本当にありがとうございました。
- ・授業で活かすというよりは自分自身のための学びだったように思います。そしてもっと英語を勉強しなさい！と貴学の先生方から背中を押されたようで、“頑張ろう”との思いを新たにしました。もっと日数をかけて学生に戻り通いたかったです。ありがとうございました。一生、英語を学んでいきたいと思います。Live and Learn.
- ・とても勉強になりました。今日、昨日の両日を通して学んだことをもとに今後の teaching plan を見直し、新しく改革していこうと思えます。先生方、ありがとうございました。



大阪女学院大学授業デザインスキルアップ演習・現職教員支援講習
2012年8月8日(木) 9:30-16:40
“生き生きとした英語表現活動”

午前：“日英感覚の違いから起こる表現の違い”
午後：“英語表現の味わい・創作活動”

参加者：本学4年生：1名 現職教員：30名

担当：中井弘一

参加教員コメント（一部紹介）

- ・自分が学生時代の頃の英語授業、そして今自分が行っている授業も含めて英作文はすべて“やらせ”の英作文でした。心に迫るものを真剣に英作文する、この体験を生徒にさせたいと思います。教師が見て面白くないものは間違いなく生徒も面白くないと感じると思います。今日は本当にありがとうございました。
- ・大阪女学院中学校から参りました。偶然、圓岡先生よりお誘いいただいたのをきっかけに参加させていただきました。全く事前に情報が入っていなかったのが残念ですが、今回伺わせていただいて大変感謝しております。今後は是非お知らせいただきたいです。ご準備に当たられた中井先生、スタッフの方、暑い中どうもありがとうございました。
- ・まず何よりも中井先生の情熱に感動しました。本講習だけでは収まりきれない数々のアイデアをお持ちで、日々の授業に悩んでいる自分としては、まねしたいものばかりでした。生徒が楽しいと思える教材づくりという原点を思い出させていただきました。本当にありがとうございました。
- ・目の前のやらなければならないことに追われすぎて、授業内容についてじっくり考えるという余裕が普段ありませんでした。「やらなければならない」ことは本当に「やらなければならない」のかをもう一度考え直す良いきっかけになりました。こういった長期休暇以外にも教育内容を考え直すきっかけが必要だと思いました。今度は教科書コミュニケーション英語 I の指導法や長文理解の指導法について教えていただきたいです。
- ・「英語表現は音から入る」そして楽しむ。非常に共感できました。私自身も音声から入るのがとても大切だと思っています。「耳」⇄音声、そして文字が自然な学習のプロセスだと信じています。毎回のパワー・トーク、パワー溢れるパワーポイント、もう頭がパンクしてしまいそうなくらいの量をたくさんいただきました。Input, Interactそして心に訴えてくる内容が多く、しっかり復習して、生徒たちに伝えたいですね。頑張ります！相当な準備だったと思います。本当にお疲れ様です。そしてありがとうございました。



*** * * 第 25 回勉強会「英語の教え方教室」 * * ***

2013(平成25)年10月19日(土) 14:00 ~ 17:00
「教職フィールドワーク課題研究発表」

将来の英語科教員として英語授業展開に対し幅広い視野を持たせるため、今年も学生6名を連れて英国へ教職フィールドワークに出かけた。現地の中学校の授業を観察したり、中学生相手にプレゼンテーションを行ったりした。博物館見学や街角観察を含め、現地の素材を使って教材を作成するなどの課題を与えている。10月の勉強会では参加学生による課題発表等を行う。

